

◎評価シート（平成31年度）

記入日 令和2年2月18日

平成31年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPO はらっぱ ( 殿 井 )	事業担当課名 (記入者名)	生涯学習推進室 ( 秋 山 )
事業名	放課後の子どもの居場所事業		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

子どもがありのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を定期的に地域に開設し、提供することを目的とする。

(2) 事業費の負担額

団体	0円
市	471,672円
合計	471,672円

(3) 実施した内容

子どもたちが平日の放課後や土曜日に自由に参加できる居場所の開設。みんなが楽しめ、あそべるようにカードゲーム、ボードゲームなど用意し、子ども同士が自由に過ごせるフリースペースとして、

- ・平日の週3回午後3～5時まで、西鳥取・尾崎・東鳥取の3会場で実施した  
尾崎（第1・3・5水曜日）・西鳥取（第2・4水曜日）・東鳥取（毎週金曜日）
- ・夏休み、冬休みは、午後1～5時まで開催（夏休み開催は、東鳥取会場のみで開催 水・金）
- ・土曜日開催 午前10～12時まで、西鳥取小学校、尾崎小学校の体育館で開催  
午後3～5時まで、東鳥取会場で開催
- ・全体の交流会、10/27「おやこカーニバル」、12/26「体育館で思いっきりそぼう」  
地域教育協議会イベント時に参加

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

※例示です。

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1

責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人々を巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立小中学校へ案内チラシを毎月配布し、開催案内を参加対象者に届けることができた。</li> <li>安定した財源により継続して運営し、関わるスタッフの確保ができた。</li> </ul>
市 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託することにより、事業の事務が軽減できた。</li> </ul>
市民 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後や土曜日の子どもの居場所を確保することができ、また、子どもが主体的に遊び、他の学校や、同学年だけでなく他の学年との交流する場とすることができた。</li> </ul>

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

市と協働で実施することにより、安定して実施でき、子どもたちの放課後の居場所として事業の実施ができています。

小学校の体育館や地域交流館では、夏季の気温上昇による熱中症の危険性があることから、冷房設備のあるふれ愛ホームに会場を変更した。このことにより、子ども居場所としてだけでなく、子育てに悩む親同士の交流や悩み解決の一助としての新たな場ともなりつつある。しかしながら、会場の大きさが来館者の人数に対して狭い点が新たな課題となっている。

3ヶ所で開設しているが、昨年度の課題を踏まえ同日開催を隔週にし、尾崎会場にスタッフ増員することで、子どもたちが安全に過ごせるように努めた。ボランティアも継続して参加した。

また、隔週になったことで子どもたちが間違えて会場に来ることがあったため、会場の扉や受付場所などにキッズ開設カレンダーを掲示し、スタッフが子どもたちに周知した。

土曜日の午後の交流会事業に加えて、午前の居場所の確保として新たに尾崎小学校、西鳥取小学校の開設日を設けたが子どもたちに周知が徹底されていない。また、西鳥取会場を金曜日から水曜日に変更、曜日が変わったことで参加者が減ったことから、毎月のキッズカレンダーとは別に開催小学校限定のチラシを配布し、広報に努めた。

土曜日開設は、スタッフの人手が不足気味であることから、より多くの方に周知し、理解、協力を求める必要がある。とくに土曜日午前開設は学校区である地域の方や保護者の方、また先生方にも理解と協力を求めるなど働きかけが必要。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

- 放課後の居場所事業は市で単独の実施は不可能であり、今後も継続させていくためには、協働での事業実施は不可欠である。子どもたちが健やかに過ごせるまちづくりへとつなげていくためには、双方の関係性をより深め協力し事業の発展へとつなげていく。
- 平日、参加できない子どもたちが身近な校区での開催で参加しやすくするために、土曜日午前開設を、尾崎小学校、西鳥取小学校の他に朝日小学校も開催する。

◎評価シート（平成31年度）

記入日 令和2年 3月6日

平成31年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	阪南吹奏楽団 (寺島 達久)	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 (井谷 匡志)
事業名	阪南市フレンドシップコンサート		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

阪南吹奏楽団の団員が習得している楽器演奏技術を子どもたちに伝えることで、音楽を通じた世代間交流をするとともに、子どもたちの向上心を喚起し、文化活動に対する意識を育み、青少年の健全育成を図る。

(2) 事業費の負担額

団体	0円
市	0円
合計	0円

(3) 実施した内容

吹奏楽部員の個人における演奏技術の向上と全体合奏での仕上がり制度の向上。  
コンクール参加校の楽器搬入支援、イベント参加校の楽器搬出支援。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

※例示です。

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	将来、吹奏楽を担う生徒さんたちと親睦を深めることができ、生徒さんたちの演奏技術向上と夏の吹奏楽コンクールで金賞を受賞される成長過程を共に歩めたこと。
市 にとって	吹奏楽コンクールへの参加は全国的にたくさんの学校がエントリーしていますが阪南市はかなり後発でした。吹奏楽コンクールで金賞を受賞された 2 校の実績で、泉南地区における阪南市の吹奏楽の知名度と認知度が上がりました。
市民 にとって	同上

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

上記でも述べましたが、吹奏楽コンクールへの参加は全国的にエントリーする学校がほとんどの状況の中、かなり後発になりましたが、阪南市では 2 年前からエントリーされるようになり、今年度は阪南市から 3 校が出演されました。（吹奏楽コンクールは野球で例えると高校野球の甲子園で、全国大会へ進めるのは夏の甲子園よりもはるかにむずかしい大会です）

今年度のコンクールでは、鳥取東中学校、貝掛中学校がそれぞれ金賞を受賞されました。残念ながら上位大会への推薦は逃しましたが、大きな躍進だと感じております。

またこの冬のアンサンブルコンクール、ソロコンクールにもエントリーされ、サラダホールで開催されたソロコンクールでは 2 名の生徒さんが金賞を受賞されました。

演奏キャリアのある大人が生徒さんたちに演奏技術支援をすることにより、生徒さんの技術向上、吹奏楽に取り組む姿勢がより前向きになり、コンクール等で実績を残せるのだと感じております。

また生徒さんたちから見れば実績が残せて、より高度な演奏ができる事への達成感、仲間たちとの一体化、演奏を聴いていただくお役さんへの感謝の気持ちを育み、より豊かな心を養えたかなと思います。

楽団から伺う際は土日となり、各校からの希望が重なるので日程を合わせるが大変でした。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

- \* 今後も技術支援という形での事業展開となる。  
\* 阪南市内の学校との連携のため、今後も学校現場と相談を行っていく。

◎評価シート（平成31年度）

記入日 令和2年3月6日

平成31年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	男里川水系環境保全活動実行委員会 ( 辻山 正甫 )	事業担当課名 (記入者名)	土木管理室 ( 廣谷 敏幸 )
事業名	男里川水系環境保全活動実行委員会		
事業開始年度	平成25年度～(男里川水系環境保全活動実行委員会の設立)		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

男里川水系(山・川・海)を阪南市の地域の宝として、未来の子どもたちに良好な環境で引き継ぐことを目的として、地域の皆さんに環境の素晴らしさを認識し、環境保全活動の重要性を理解し、広く推進する運動(活動)を定着させることを目指します。

(2) 事業費の負担額

団体	約7万円(カレンダーの製作費:自費負担)
市	0 円
合計	0 円

(3) 実施した内容

月例の清掃活動:男里川河口部干潟と海岸部・金熊寺川(年間12回の活動)  
 夏休み親子の水生物観察会(8月11日に実施:男里川菟砥橋)、水辺の学校(尾崎小学校4年生)  
 はんなんTV出演(男里川水系一斉清掃について)  
 男里川水系一斉清掃活動(毎年2月の第3土曜日に実施、市民の皆様に参加・協力)  
 環境啓発ポスターの募集(市内の小中高生対象)と展示会、及びカレンダー作成・配布

2. 事業の評価

※評価点(3段階)

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点(3段階)		
	3	2	1
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はんなんTV出演により、環境保全・啓発活動の重要性が市民の方に発信できた。</li> <li>・予算が無い中、環境啓発のポスター応募とカレンダー作成を自費で実施し、応募者にお渡しし好評を得た。</li> <li>・水辺の学校等の活動で、子どもたちに自然体験等の貴重な体験学習をしてもらった。</li> </ul>
市 にとって	男里川の環境保全活動で、多くの市民の方に環境啓発や環境保全が出来た。
市民 にとって	男里川清掃活動に自治会参加し、市民の皆様は環境保全活動の重要性を理解し、更に男里川や周辺の地域の環境・景観が向上した。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化等で気温の上昇により、毎年8月10日に行っている男里川での親子の水生物観察会が、高温注意報発令により中止され、今後の開催が出来なくなる恐れがある。</li> <li>・活動費面で、必要な多くの活動が出来ていない、又継続の困難な活動もあります。</li> <li>・安全で安定した活動を継続し行う上で、多くの市民の皆さんにご参加頂ける体制の確保が困難となって来ています。</li> <li>・一人でも多くの市民の皆さんに感心や参加を頂く為の工夫（PR・教育等）が難しい。</li> </ul>
--



(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案事業継続 提案事業以外） 休止または終了  
市が単独で実施 団体が単独で実施  
その他（

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

団体の高齢化や人員確保が課題  
カレンダー等の販売も含めた、予算確保の検討が必要

◎評価シート（平成31年度）

記入日

令和2年3月6日

平成31年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPOはらっぱ (川端 智代)	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 (花元 英夫)
事業名	子どもの声を聴き共有するラウンドテーブル		
事業開始年度	平成27年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

子どもたちが安心、安全に暮らせる、笑顔あふれるまちづくりを実現するために子どもたちの心に寄り添い、声を聴き、提案団体と行政の情報共有の関係づくりをすることで、子どもの現状や子どもの周りで起きている問題・社会課題の解決を図っていく。

(2) 事業費の負担額

団体	0	円
市	0	円
合計	0	円

(3) 実施した内容

8月28日と12月26日に意見交換のためのラウンドテーブルを実施。  
3月も開催予定であったが、コロナウイルス流行の影響で開催を断念した。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

※例示です。

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	②	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	②	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	②	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	②	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	②	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	②	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	②	1
予算は妥当だったか。	3	②	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	②	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	②	1
予定した成果は上がったか。	3	②	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	子どもに関わる課と情報共有の関係づくりをすることで、子どもと保護者の現状や子どもの周りで起きている課題について話すことができた。話すことで関係づくりにも繋がっている。
市 にとって	お互いの情報交換ができた。今後、様々な課題解決を検討できる関係を持つことができた。
市民 にとって	平日の乳幼児のおやこ、放課後や休日の子どもの声に関わる市民団体を通じて行政に届けることが出来た。また、子どもを取り巻く状況について行政からの情報を市民に伝えることが出来た。関係団体及び関係課で情報共有することで、それぞれが担当する事業、取り組みの充実につながった。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>学期ごとの開催を予定していて、1 学期 2 学期とも開催できた。子ども NPO はらっぴが行う様々な事業を通じて見えてくる親と子どもの現状や課題を行政の担当課と情報共有する意義ある機会であり、有効な情報交換ができた。</p> <p>今後、子どもの現状や社会課題を解決する糸口を見い出せる話し合いに発展できればと考える。</p>
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

子どもたちや保護者に関わる日常について、市の担当者と市民で共有できる場があることは、課題解決に必要な事業であると考えている。今後は委託事業だけでなく、自主事業を通しての課題なども含め、個人情報等の守秘義務はありますが、できるだけ情報を共有し、子どもたちの環境整備のために、さらに貢献していきたい。また、子どもの事を理解できるおとなを地域に増やすために提案した事業であるので、「子どもの声を聴くおとな養成講座」の共有として発展させていきたい。

◎評価シート（平成31年度）

記入日 R2年3月2日

平成31年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	本のリサイクル運営員会 ( 横山 泰治 )	事業担当課名 (記入者名)	図書館 ( 籠谷 早織 )
事業名	本のリサイクル関連事業		
事業開始年度	平成29年度～		
提案の区分	<input type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input checked="" type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

市立図書館の除籍済み資料及び不要とする寄贈資料を最大限活用して、その収益を社会に還元すること。

(2) 事業費の負担額

団体	243,077 円
市	0 円
合計	243,077 円

(3) 実施した内容

毎週土曜日に除籍本・寄贈本を「リサイクルブック“つながり”」店舗にて販売している。H31年度は、2月末時点で運営委員会10回、役員会1回。ディスプレイ作業回数10回を実施した。実績は、来館者3,731人、売上冊数2,359冊、収益248,400円となっている。図書館からは7,938冊（内訳：除籍資料4,275冊・不要となった寄贈資料3,663冊）が“つながり”へ譲与された。今年度の収益から社会還元の一環として公立の保育所・幼稚園・小学校・子育て支援センター・図書館の17施設に対して、書籍購入支援を実施。また、図書館の来年度の雑誌スポンサーとして1誌追加し、合計7誌の年間購読料を負担することが決定している。ボランティアスタッフも随時、募集している。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

※例示です。

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	③	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	③	2	1

相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	③	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	③	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	③	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	③	2	1
予算は妥当だったか。	③	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	③	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	③	2	1
予定した成果は上がったか。	③	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	③	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	図書館の雑誌スポンサー、公立の保育所・幼稚園・小学校・子育て支援センター・図書館への寄付など継続して社会還元ができた。ボランティア自身が楽しく活動する場となっている。
市 にとって	図書館で不要となった本が活用され、その収益が公立の保育所・幼稚園・小学校・子育て支援センター・図書館の書籍購入や図書館の雑誌購入に活用されることで、市の読書活動推進の一助となっている。
市民 にとって	図書館で不要となった本がリサイクル本として活用販売され、市民の読書行動に活かされている。市民の交流の場の基点となり、人と人とのつながりが広がっている。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>ボランティアメンバーに若干の増減はあるものの高齢者が多く、活動を継続していく上では、若年層のメンバーを増やすことは必須課題である。</p> <p>ボランティアメンバーを増やすことは、平日開店・書店カフェへと拡大させていくこと、市民交流の場として、市民の要望に応えることにつながるのので、様々な方法での募集活動に努めていく。</p>
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案事業継続  提案事業以外）  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他（

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

つながりスペースが「リサイクルブック “つながり”」をきっかけに様々な市民団体に活用されるようになり、益々市民活動の場の基点となることを願っている。